

# 浜松版MaaS構想（案）

Digital Smart City HAMAMATSU

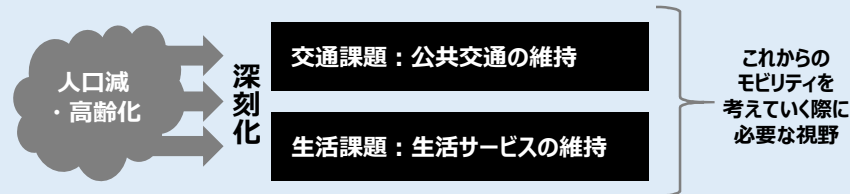


## 持続可能なまちづくりや生活サービスの維持・質の向上に向けて

交通領域にとどまらず、市民の生活全般に関わるテーマとして捉えた“新たな発想のMaaS (\*①)”が求められています。

### 浜松市の現状と課題

- 人口減少・少子高齢化を背景とし、公共交通の維持をはじめとした交通課題に直面している。生活サービス（買物や医療等）の維持も大きな課題であり、各種サービスとモビリティ (\*②)の連携による持続可能なまちづくりが求められている。



- 本市は「デジタルファースト宣言 (\*③)」のもとデジタル・スマートシティ (\*④)の取組を始動。分野間連携による市民QoL (\*⑤)向上や都市の最適化 (\*⑥)に向けMaaSの取組との連携が求められている。



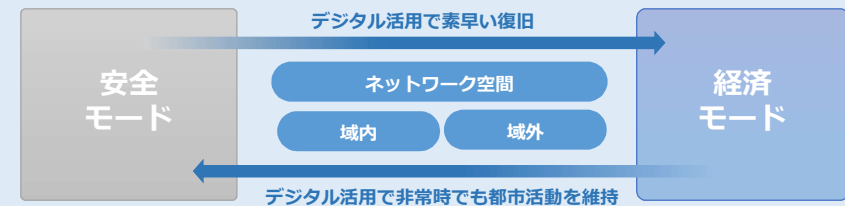
### 関連動向

- 国は、骨太の方針 (\*⑦) で、東京一極集中型から「多核連携型」への移行を掲げ、地方都市の活性化に向けた環境整備を推進することとしている。そうした中、移動環境の整備は重要施策の一つであり「自家用有償旅客運送 (\*⑧) 制度の創設」や「日本版MaaSの推進」等の取組が成長戦略 (\*⑨)に位置付けられている。また、国際社会における環境負荷低減の要請への対応も求められている。

#### 日本版MaaSの推進 (成長戦略フォローアップ)

- ① 地域における移動手段の維持・活性化
- ② モビリティと物流・サービスとの融合  
(自家用有償旅客運送の円滑な実施…等)
- ③ 新しいまちづくりとモビリティ
- ④ データ連携の加速

- 「Withコロナ/ポストコロナ時代 (\*⑩)」の「ニューノーマル (\*⑪)」に対応した新たな環境整備の一つである「デュアルモード社会 (\*⑫)」の構築も求められている。



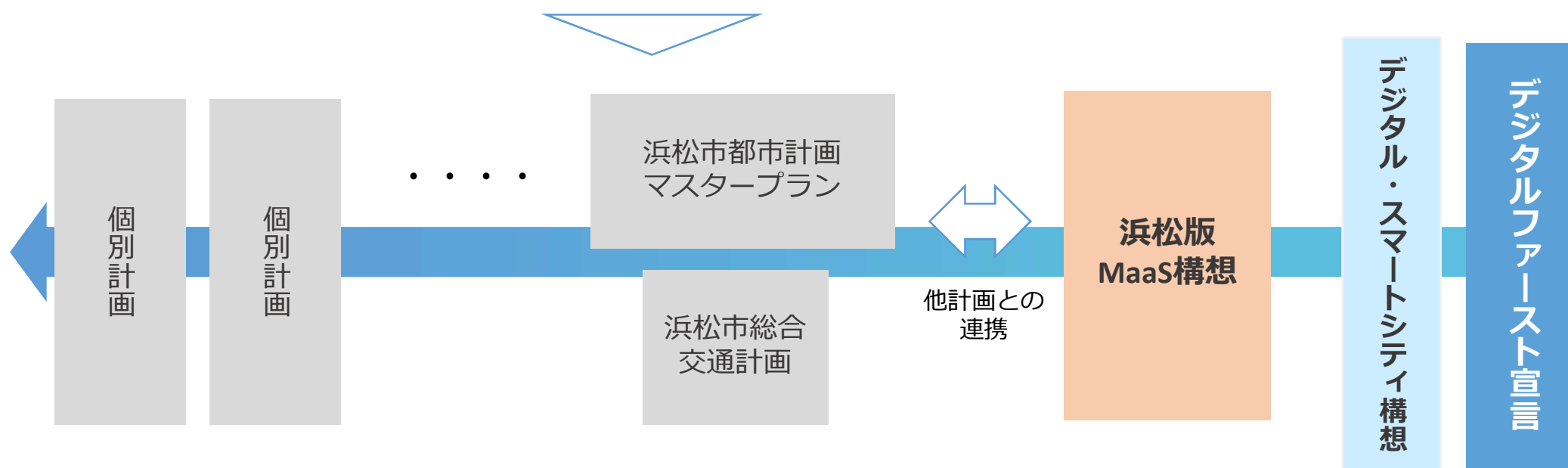
モビリティと各種サービスの連携により、持続可能なまちづくりを推進するにあたり、その指針として「浜松版MaaS構想」を策定して、市民のみならずと共有するとともに交通領域にとどまらない様々なプレイヤー (\*⑬)による共創を促していきます。

## Ⅱ. 構想策定の趣旨／構想の位置づけ

本構想は、市民、企業・大学等、行政が主体的に参加し、地域課題解決や地域活性化に繋がるサービスを生み出す際の指針となるものです。

本構想は、本市の最上位計画である総合計画<sup>(\*)</sup><sup>(14)</sup>に基づく個別計画であるとともに、「浜松市都市計画マスタープラン」「浜松市総合交通計画」「浜松市デジタル・スマートシティ構想」等の他計画と連携しながら、交通課題に限らず多様な都市課題解決の取組の指針となります。

**浜松市総合計画**  
**基本構想：浜松市未来ビジョン**  
 2014年12月策定 計画期間：2015年度～2044年度  
**基本計画：浜松市未来ビジョン第1次推進プラン**  
 2014年12月策定 計画期間：2015年度～2024年度



# Ⅲ. 構想に活かすべき本市の強み

構想策定にあたっては、浜松市の特徴や強みを活かす視点を持ち、  
浜松市ならではのMaaSを推進していきます。

## 強み① (多様性)

### 多様な暮らし方や楽しみ方を可能にする環境

- 都市部・郊外・中山間地域と、様々な暮らし方・楽しみ方ができる多様な環境（国土縮図型都市）
- 新幹線や高速道路等、近隣都市圏とのアクセスが便利な交通環境



## 強み② (助け合い)

### 市民・企業の“やらまいか精神”や共助の心

- 「やってみよう」「やってやろうじゃないか」と、新しいことに果敢にチャレンジする精神、そして浜松を誇りに思い、互いに助け合う心など、オープンなイノベーション (\*15) の土壌



## 強み③ (創造性)

### ものづくり力

- 世界的な輸送用機器メーカーや楽器メーカーが集積しており、また同時にスタートアップ・エコシステムグローバル拠点都市 (\*16) でもある大企業とスタートアップ (\*17) の共創・創発が生まれやすい環境



浜松市のヒト・モノ・コトをモビリティで“繋ぐ”ことによって、持続可能でより豊かな都市の実現を目指します。

## ヒト・モノ・コトをモビリティで“繋ぐ”と浜松の暮らしはもっと輝く

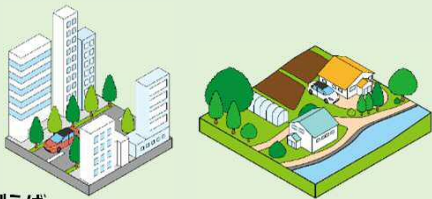
人口減少・少子高齢化で限られた資源（ヒト・モノ・コト）をモビリティで繋ぎ、持続可能な都市を目指します。

さらに、ヒトの移動に留まらない価値を創出し、

浜松での暮らしをより豊かにし、来訪者にとっての魅力も高めていきます。

### 必要な視点1 地域ごとの魅力の最大化

- 都市部から中山間地まで多様な暮らし方・楽しみ方ができる本市の魅力最大化します。



例えば…

- ◆ 豊かな文化を享受する都市の暮らし
- ◆ 自然に囲まれた暮らし
- ◆ 東京や大阪等の大都市との二拠点生活

### 必要な視点2 ともに支え、ともに創造

- 人々の移動や地域を“ともに支え”、様々なモビリティサービスを創出することでより豊かな暮らしを“ともに創造”します。



例えば…

- ◆ 自家用有償旅客など、公共交通事業者だけに依存しすぎない市民も参加しての移動環境づくり
- ◆ アイデアソン等、みんなで考える機会の設置

### 必要な視点3 しなやかに繋がる

- 利用者目線のシームレス<sup>(\*18)</sup>なサービスや自然災害・パンデミック<sup>(\*19)</sup>への備えなど、しなやかに繋がる地域を構築します。

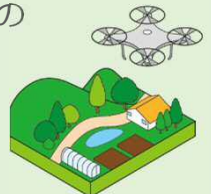


例えば…

- ◆ ヒトだけでなく、モノ・コトの移動も含み最適化
- ◆ 様々な状況に応じて、ヒト、モノ、コトの移動が柔軟に繋がるサービスの設計

### 必要な視点4 市民起点でのまちづくり

- コンパクトでメリハリのあるまちづくりとともに、デジタルテクノロジー<sup>(\*20)</sup>は手段として捉え、高齢者や子育て世代をはじめ多様な市民の生活ニーズからサービスを発想します。

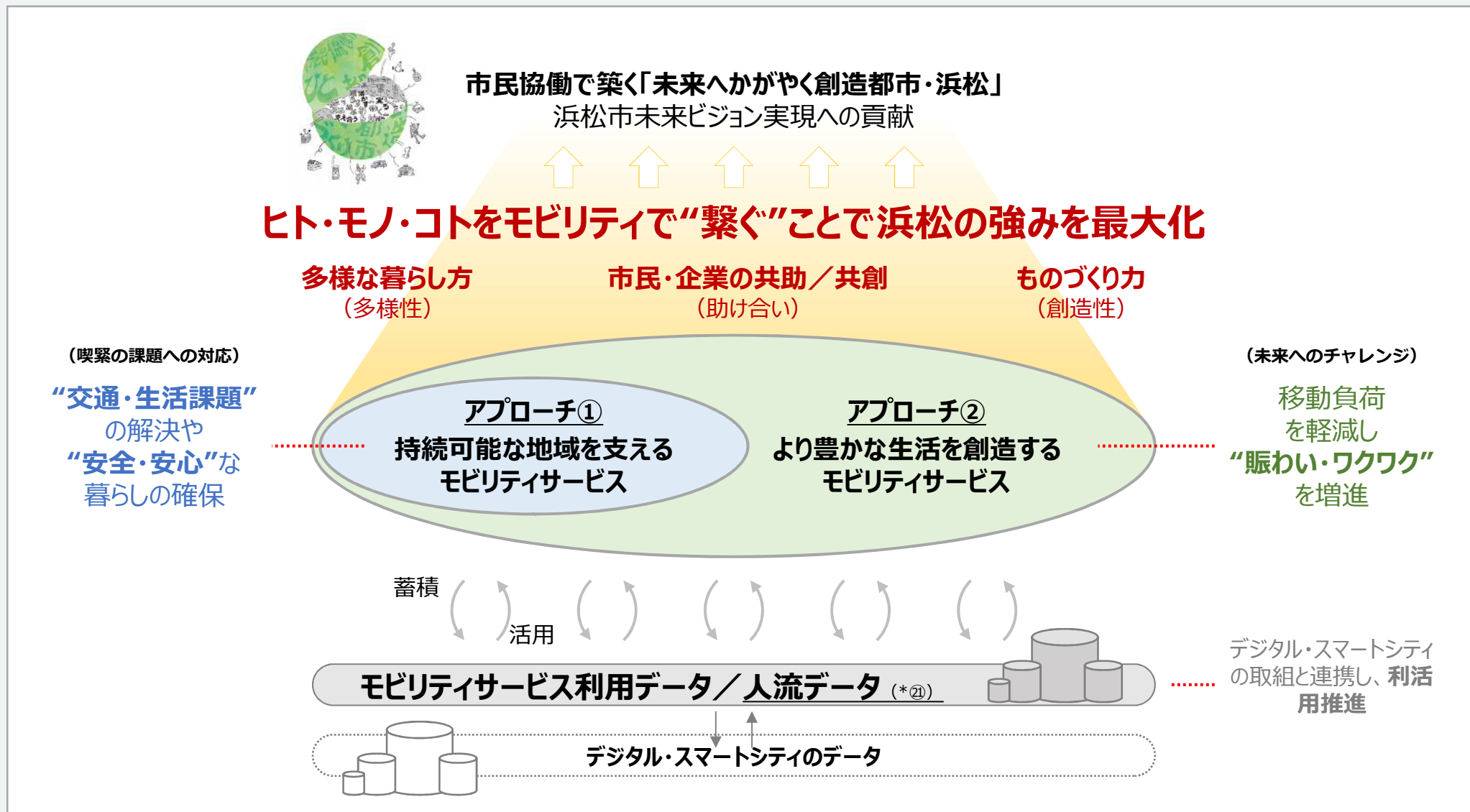


例えば…

- ◆ 技術ありきではなく、市民の生活ニーズから発想（デジタルテクノロジーはあくまで手段）



『喫緊の課題への対応』と『未来へのチャレンジ』を組合せて取り組みながら  
多様性・創造性といった浜松市の強みを最大化していきます。



# VI. モビリティサービス（取り組み例）

“交通・生活課題”の解決や、  
“安全・安心”な暮らしの確保

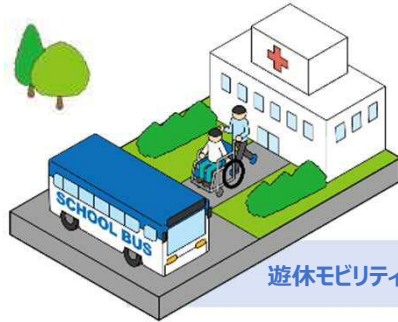
アプローチ①  
持続可能な地域を支える  
モビリティサービス

アプローチ②  
より豊かな生活を創造する  
モビリティサービス

移動負荷を軽減し  
“賑わい・ワクワク”を増進



移動販売や  
配送の地域内連携



遊休モビリティ資産の活用

移動診療の推進  
(医療MaaS)



自家用車を使った乗り合いの促進  
(自家用有償旅客運送等)



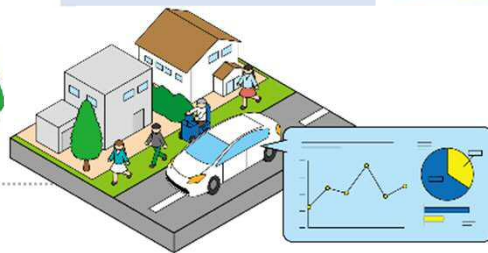
異なる交通手段の連携や  
一体的運用・運営



移動や人流データの  
活用・見える化  
(公共交通の効率化、アプリ活用など)



デュアルモード社会づくりへの貢献



商業施設等との連携



観光資源との連携



多拠点居住用サブスクMaaS  
(関係人口向けの移動環境)



自動運転車の活用

浜松テレワークパーク構想



フードデリバリー  
プラットフォーム構築



イベント等との連携



浜松市  
MAP

アプローチ①  
持続可能な地域を支える  
モビリティサービス

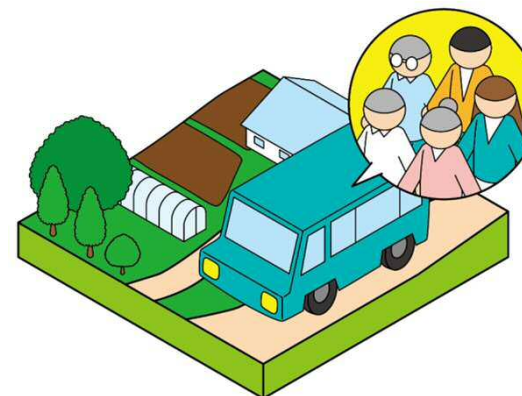
アプローチ②  
より豊かな生活を創造する  
モビリティサービス

“交通・生活課題”の解決や、“安全・安心”な暮らしの確保



## 移動診療の推進 (医療MaaS (\* ②))

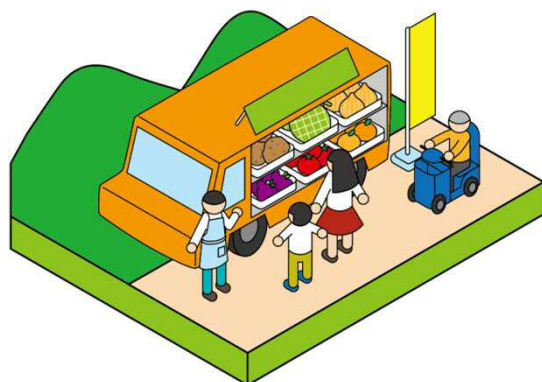
車を活用した遠隔診療や遠隔服薬指導、薬剤配送の推進



## 自家用車を使った 乗り合いの促進

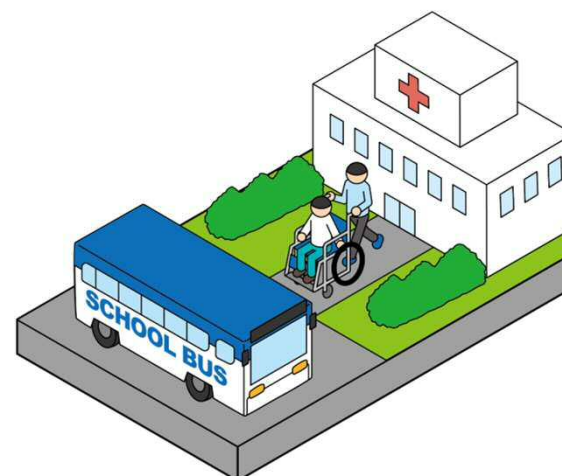
(自家用有償旅客運送等)

公共交通の維持が困難な地域を中心に、住民が自家用車を用いて、有償運送する共助型のサービスの導入を促進



## 移動販売や 配送の地域内連携

買物難民や宅配業の人手不足等への対応として、支えあいによる小売や物流の促進



## 遊休モビリティ 資産の活用

介護や福祉施設の送迎車両やスクールバスなど、昼間の遊休車両等の活用の促進



# VI-1-2. 持続可能な地域を支えるモビリティサービス（取り組み例）

Digital Smart City HAMAMATSU

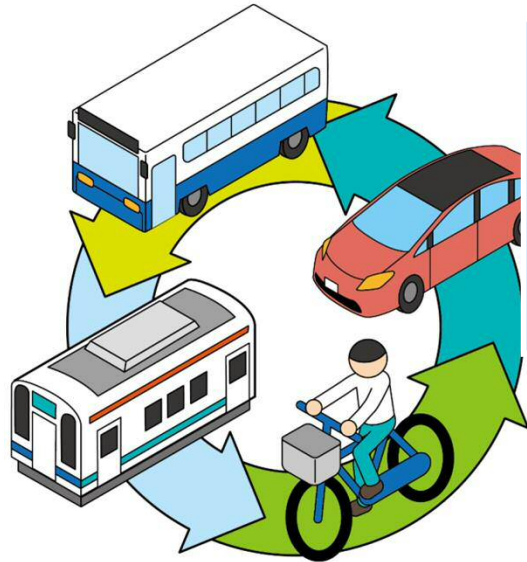
## アプローチ①

持続可能な地域を支える  
モビリティサービス

## アプローチ②

より豊かな生活を創造する  
モビリティサービス

“交通・生活課題”の解決や、“安全・安心”な暮らしの確保



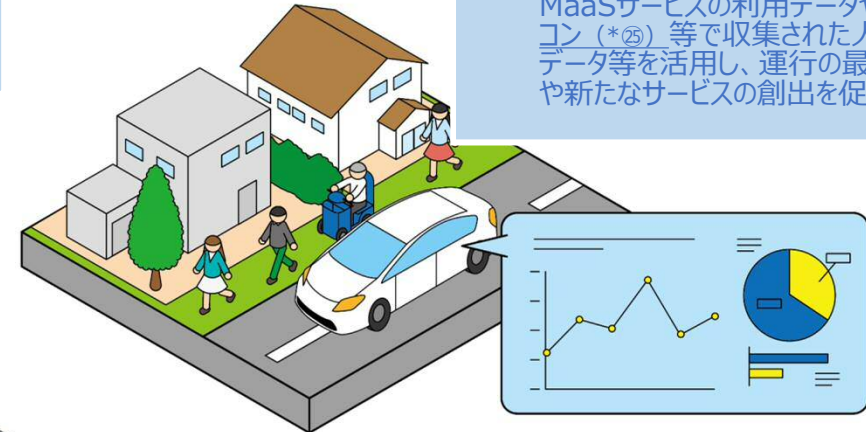
### 異なる交通手段の連携や 一体的運用・運営

異なる交通手段の連携やデマンド型  
(\*③)の運行等を活用し、移動の効  
率化を促進

### 移動や人流データの 活用・見える化

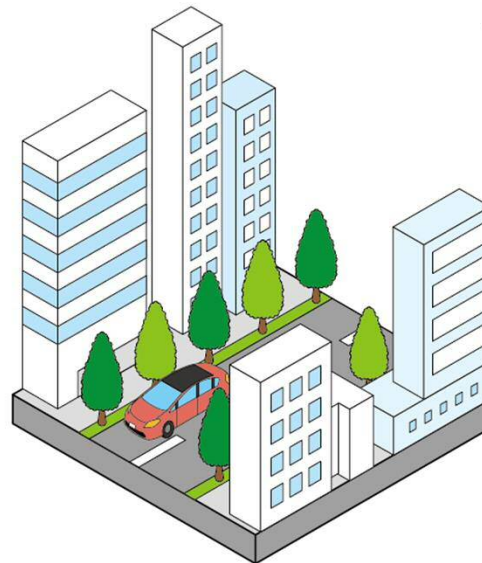
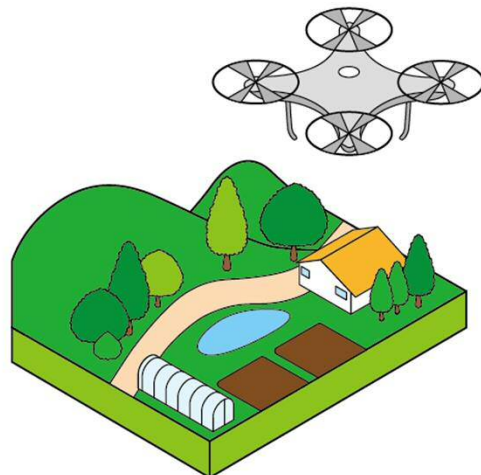
(公共交通の効率化、アプリ(\*④)活用など)

MaaSサービスの利用データや、ビー  
コン(\*⑤)等で収集された人流  
データ等を活用し、運行の最適化  
や新たなサービスの創出を促進



### デュアルモード社会づくりへの貢献

自然災害やパンデミック発生など、移動が制限される際のドローン  
等の活用の検討



## アプローチ①

持続可能な地域を支える  
モビリティサービス

## アプローチ②

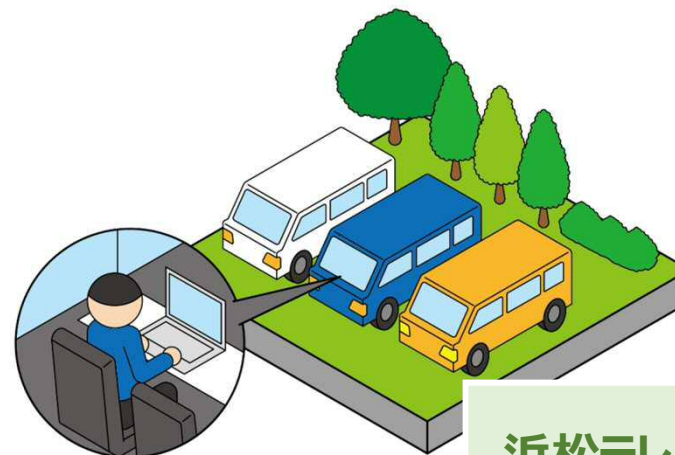
より豊かな生活を創造する  
モビリティサービス

## 移動負荷を軽減し“賑わい・ワクワク”を増進



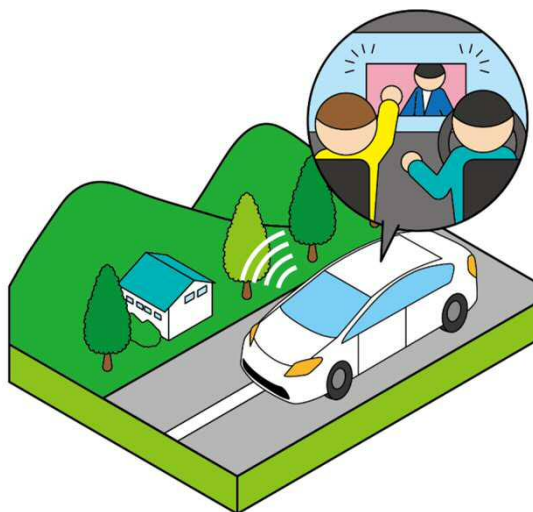
### フードデリバリー プラットフォーム<sup>(\*)</sup>構築

浜松発の地方版、フードデリバリー  
プラットフォームを官民連携で構築



### 浜松テレワークパーク構想

クルマをオフィス空間として活用し、駐車場等の  
空きスペースを利用することで、景観や環境を自  
由に選べるサービスを官民共創で構築



### 自動運転車の活用

中山間地域をはじめ、公共交  
通の維持が難しい地域での活  
用を検討



### 観光資源との連携

モビリティで観光資源を繋いだり、  
観光施設やアクティビティ<sup>(\*)</sup>と  
セットにしたチケットの販売等で浜  
松の魅力を最大化

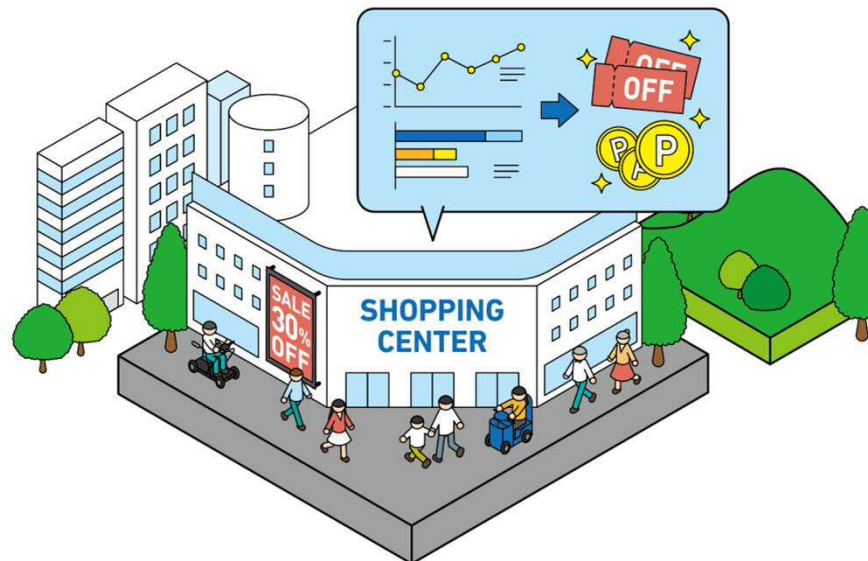
## アプローチ①

持続可能な地域を支える  
モビリティサービス

## アプローチ②

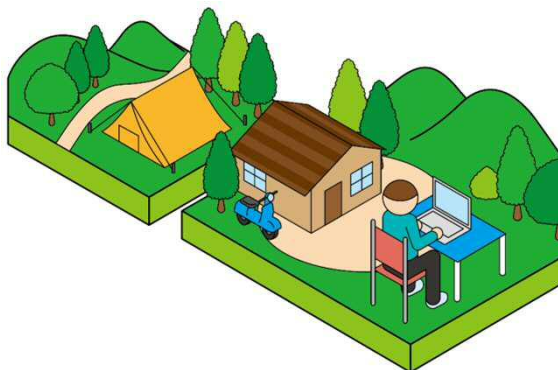
より豊かな生活を創造する  
モビリティサービス

## 移動負荷を軽減し“賑わい・ワクワク”を増進



### 商業施設等との連携

クーポンの配信やサイネージ（\*<sup>③①</sup>）へのリコメンド情報（\*<sup>③②</sup>）の表示など、商業施設等との連携により、まちを活性化



### 多拠点居住（\*<sup>②⑧</sup>）用 サブスク（\*<sup>②⑨</sup>）MaaS （関係人口（\*<sup>③③</sup>）向けの移動環境）

サブスクで利用できる移動手段の提供など、多拠点居住者誘致に向けた環境整備



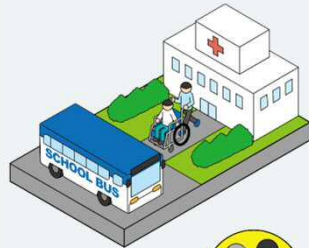
### イベント等との連携

食、音楽、演劇等、場所を問わず車で提供可能な様々なエンターテインメントを組み合わせ、浜松の豊かな自然を活用したイベントを提供



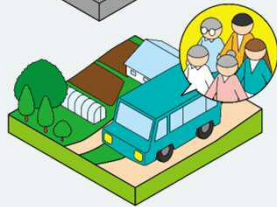
## 地域の課題解決にデータを活用し、 持続可能で豊かな地域を目指す。

### ■ 地域交通の効率化・生活インフラの維持



#### <活用イメージ>

- 自家用有償・乗り合いサービス
- バスルートの最適化
- 移動診療・移動販売



#### <データ例>

- 自動車GPS (\*<sup>33</sup>) /コネクテッド (\*<sup>34</sup>)
- モノ・サービス移動ログ (\*<sup>35</sup>)

### ■ 渋滞や事故軽減・インフラメンテナンス



#### <活用イメージ>

- 渋滞情報の共有や軽減対策
- 交通事故の軽減対策
- 道路等のモニタリング

#### <データ例>

- 市民GPSログ
- 自動車GPS/コネクテッド
- バス・タクシーGPS/ビーコン
- 公共交通ダイヤ/事故情報
- 車載カメラによる道路情報



### ■ 地域活性化



#### <活用イメージ>

- 広告/クーポン配布
- 個々人に最適化された商品提供
- 移動を含む観光パッケージ

#### <データ例>

- 市民GPSログ
- バス・タクシーGPS/ビーコン
- 観光地・周辺施設情報





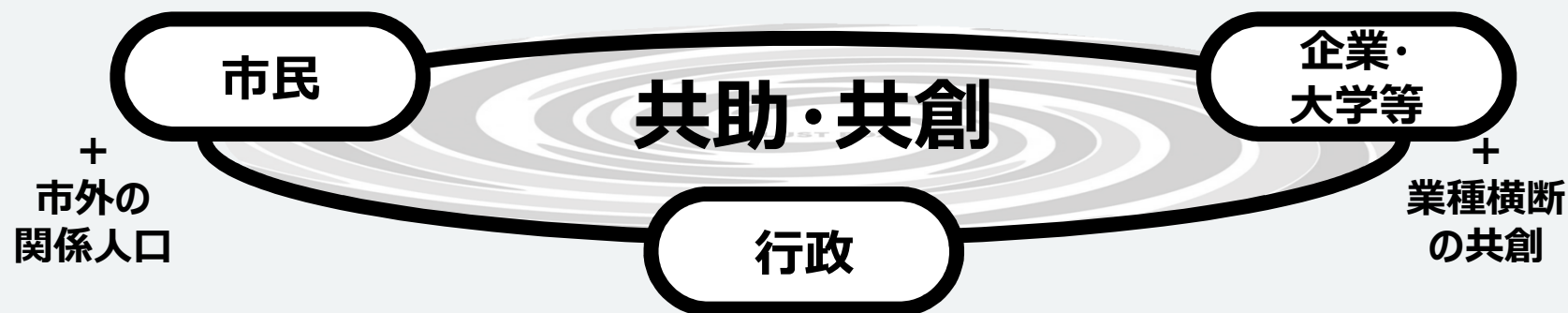
## Ⅶ. 推進体制

Digital Smart City HAMAMATSU

市民、企業・大学等、行政が役割を持ち、それぞれが主体的に参加する創発性の高いエコシステム (\*36) を形成。  
エコシステムの活動を通じて、地域課題解決・地域活性化に資するサービスやソリューション (\*37) を生み出していきます。

持続可能なまちづくりの主役として市民自らが役割を担い、  
企業や行政と共に新たな取組を考え、その担い手となっていく。

エコシステムに積極的に参加して他社や市民との共創により  
新たな取組を創出。自社事業として持続的に運営を担う。



共助・共創のコーディネータ役。企業や市民が参加するエコシステムを運営し、新たな取組の創出を支援する。

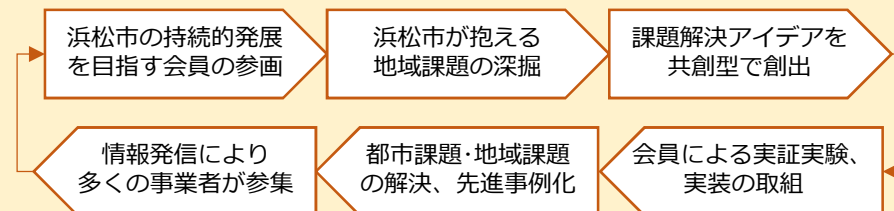
### 「浜松市モビリティサービス推進コンソーシアム」 を中核とした、エコシステムの形成



「浜松市モビリティサービス推進コンソーシアム」は、モビリティサービスの観点から浜松市の持続可能な発展を目指して、令和2年4月に設立。官民が連携し、これからの浜松市に必要なモビリティサービスを生み出すプロジェクトを支援し、会員同士の意識共有や新たな繋がりを創出しています。「浜松市デリバリープラットフォーム」や「浜松テレワークパーク構想」など、様々なプロジェクトが立ち上がり、創発性の高いエコシステムを形成しています。

### 浜松市モビリティサービス推進コンソーシアム

浜松市の新しいモビリティサービスを考えるアイデアソン (\*38) など、会員主導のプロジェクト創出支援を実施。



※市内のプロジェクト例

#### 浜松市デリバリープラットフォーム

コロナ禍で影響を受けた飲食店を支援するために、官民が連携して、飲食店・消費者・宅配事業者などをオンラインで結ぶデリバリープラットフォームを形成。



#### 浜松テレワークパーク構想

車や駐車場を活用することでより良いテレワーク (\*39) 環境をつくり、浜松市を挙げてテレワークを促進するための官民連携の構想。



2020年度から2024年度の5年間で浜松版MaaS構想の第一期と位置付け、  
交通・生活課題の解決から着手して、モビリティとサービスの連携やデータ利活用へと徐々に拡大。  
中期的に、“安全・安心”の確保や“賑わい・ワクワク”の増進を図り、市民QOL向上、「浜松市未来ビジョン」の実現を目指します。

“交通・生活課題”  
の解決や  
“安全・安心”な  
暮らしの確保

アプローチ①  
持続可能な地域を支える  
モビリティサービス

アプローチ②  
より豊かな生活を創造する  
モビリティサービス

移動負荷  
を軽減し  
“賑わい・ワクワク”  
を増進

2020年度

2024年度

2044年度

浜松版MaaS構想 第一期

アプローチ②

アプローチ①

市民  
QoL  
向上



市民協働で築く  
「未来へかがやく創造都市・浜松」  
浜松市未来ビジョン実現への貢献

“交通・生活課題”を解決

“安全・安心”の確保

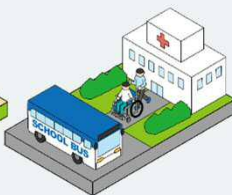
“賑わい・ワクワク”を増進



自家用車を使った  
乗り合いの促進  
(自家用有償旅客運送等)



移動販売や配送の  
地域内連携



遊休資産の活用



移動診療  
(医療MaaS)



デュアルモード社会づくりへの貢献



観光資源との連携



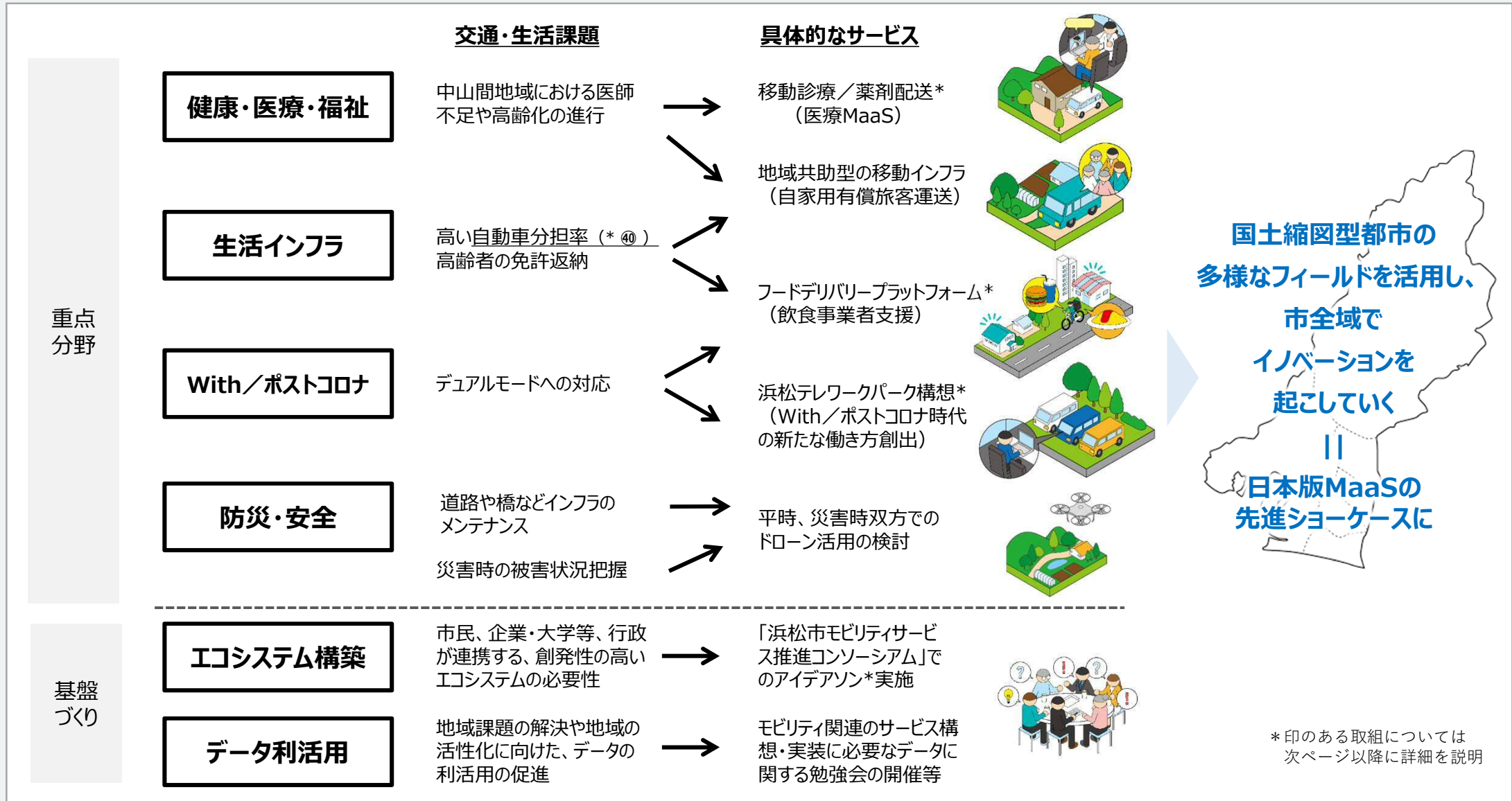
イベント等との連携



商業施設等との連携

# IX. 第一期（2020年度～2024年度）の取り組みイメージ

構想第一期は、官民連携による創発性の高いエコシステムづくりや、データ利活用に関する研究等、  
**MaaS構想の基盤づくり**に取り組むとともに  
**重点分野**として「健康・医療・福祉」「生活インフラ」「with/ポストコロナ」「防災・安全」を設定し  
**国土縮図型都市**である浜松市の多様なフィールドを活用して、本市全域でイノベーションを推進。  
 これらの取組を通じて、浜松市が日本版MaaSを先導するエリアとなることを目指します。



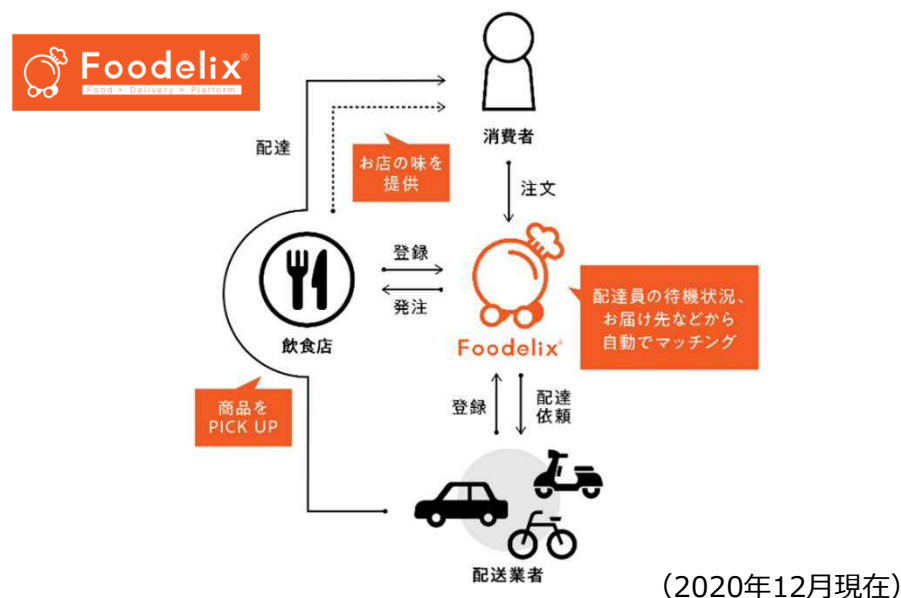
# IX-1. 動き始めている取り組み例

## フードデリバリープラットフォーム

### 浜松市の地域特性に合わせた新しいデリバリー&テイクアウトプラットフォーム「Foodelix」の構築。

コロナ禍でテイクアウトニーズが増える一方、決済・配送エリアも異なる事業者単位でサービスを行っている為、利用者としては使いづらいという課題と、デリバリーサービスを利用したい事業者のノウハウ不足という課題を解決する為に、注文・決済・配送までの一元的に管理できるデリバリー&テイクアウトプラットフォームを構築。

(株)こころ、(株)日本シャルフ、(株)サンロフト、浜松市 4者で立ち上げ、2020年10月から運用を開始しています。



## 春野医療MaaSプロジェクト

### 医療資源の乏しい中山間地域で、「医療を届ける」モデルの構築に向けた実証実験を天竜区春野町で実施。

天竜区は、高齢化が進行し、マイカー依存度が高く、今後、高齢者が免許返納等により自家用車での移動が困難になることが懸念されます。地域交通等の衰退による通院困難、地域の医療課題（医師不足等）により、将来適切な医療サービスの継続が困難になる可能性があるため、中山間地域において通院困難な高齢者に「医療を届ける」モデルの構築を目指す実証実験を実施。

実証実験では、移動診療車を用いたオンライン診療を行い、オンライン診療を受診した患者に対して医師や薬剤師と連携してオンラインでの服薬指導やドローンなどを使った薬剤配送も行います。実験を通じて、それらの運用上の課題を検証していきます。



(2020年12月現在)



## IX-2. 動き始めている取り組み例

### 浜松テレワークパーク構想

#### 駐車場をコワーキングスペース (\* ④) として活用する事で浜松ならではの新たな働き方を提案。

コロナ禍で企業に求められたテレワークへの取り組みによって起きた「仕事ができる個室の確保」等の課題を解決するために、駐車場をコワーキングスペースとして活用する事で新たな働き方を提案する「浜松テレワークパーク実現委員会」を、We will Accounting Associates(株)、スズキ(株)、(株)東海理化、浜松市の4者で設立。

多拠点居住や関係人口拡大に貢献するサービスとして、2021年4月度以降の事業化を目指し、2020年11月より移動オフィスとコワーキングスペースの実証実験を開始しました。



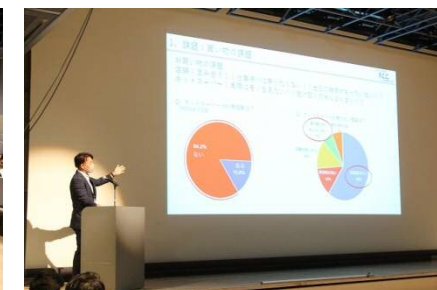
(2020年12月現在)

### アイデアソン

#### 新しいサービスのアイデア創出に向けて、モビリティコンソーシアム参加企業同士での「意識共有」、「関係構築」、「価値創造」を促進する事を目的とした、企業共創型サービス創発プログラムを実施。

浜松市の課題視点で、それぞれの参加企業がサービスを創造していく事をサポートできる様に、MaaS、スマートシティ最新事例のインプット、浜松市の課題の深堀、共創型のサービスアイデア発想等のプログラムを用意。初年度は10社が発表を行い、浜松市長始め、コンソーシアム幹事企業からの講評など、各アイデアのサービス具体化に向けたサポートに貢献する施策となりました。

今後も本プログラムを定期的実施していきながら、浜松市民の生活の質を向上させる新しいモビリティサービスアイデア創出とプロジェクト具現化のきっかけの場として推進していく予定です。



(2020年12月現在)

- 1. マース**  
マース  
「Mobility as a Service」の略。複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービス。観光や医療等の目的地における交通以外のサービス等との連携により、移動の利便性向上や地域の課題解決にも資する重要な手段となる
- 2. モビリティ**  
乗り物等、人の移動に関わることやモノ
- 3. デジタルファースト宣言**  
令和元年10月31日に発出。「データ活用や地域課題解決を通じたイノベーションの活性化」「デジタル化による生産性向上」「デジタル技術やデータの活用による市民生活の快適化」を目指すために「都市づくり」「市民サービス」「自治体運営」にデジタルファーストで取り組むことを宣言
- 4. デジタル・スマートシティ**  
「デジタルファースト宣言」の3つの戦略分野の1つである「都市づくり」における政策。データや先端技術を最大限に活かし、産業の活性化やインフラの効率的な維持管理など都市機能の高度化を目指す
- 5. 市民QOL**  
キューオーエル  
QOLは「Quality of Life」の略。人々の幸福感・効用など、社会のゆたかさや生活の質のこと
- 6. 都市の最適化**  
都市の抱える諸課題に対して、ICT等の新技術を活用しつつ、効果的・効率的な都市計画、都市整備、都市管理・運営を実現すること。
- 7. 骨太の方針**  
「経済財政運営と改革の基本方針」国の経済対策等の基本骨格を示したもの
- 8. 自家用有償旅客運送**  
バス、タクシー等が運行されていない過疎地域などで、登録を受けた市町村、NPO等が自家用車を用いて住民を有償で運送すること
- 9. 成長戦略**  
「投資の促進」「人材の活躍強化」「新たな市場の創出」「世界経済とのさらなる統合」の4つの視点をベースにして、規制緩和等によって、民間企業や個人が真の実力を発揮するための方策をまとめたもの。令和2年7月17日に「成長戦略実行計画」「成長戦略フォローアップ」が閣議決定された。
- 10. Withコロナ/ポストコロナ時代**  
ウィズ  
新型コロナウイルスの流行に即した今とこれからの時代を指す
- 11. ニューノーマル**  
新型コロナウイルス感染症の流行を経て移行する人々の行動・意識・価値観の新たな常態・常識のこと
- 12. デュアルモード社会**  
経済効率を重視する「経済モード」と、国民の健康と安全とを最優先にする「安全モード」の2つのモードを新型コロナウイルス感染症の状況に応じて適宜切り替える社会。
- 13. プレイヤー**  
サービスを提供または享受する企業、団体、個人を指す
- 14. 総合計画**  
浜松市の最上位計画。30年後（1世代先）の理想の姿を示した「浜松市未来ビジョン（基本構想）」と、10年間の総合的な政策を定めた「第1次推進プラン（基本計画）」の2章で構成される。
- 15. イノベーション**  
これまでにない新しいサービスや製品などを生み出すこと
- 16. スタートアップ・エコシステム  
グローバル拠点都市**  
内閣府が経済面や技術面など様々な支援を行うことで世界と同等に戦える日本企業の創出を目指し、全国で4地域を選定
- 17. スタートアップ**  
短期間で、イノベーションや新たなビジネスモデルの構築、新たな市場の開拓を目指す動きや企業のこと
- 18. シームレス**  
機能やサービスがよく連携していて利用者にとって快適であるということ

|                            |  |
|----------------------------|--|
| 19. パンデミック                 | 世界的大流行のこと  |
| 20. デジタルテクノロジー             | 情報技術のこと  |
| 21. 人流データ                  | いつ、どこに、どれくらい人がいるかを示すデータ  |
| 22. 医療 <sup>マース</sup> MaaS | モビリティとデジタルの力によって、医師不足や高齢化等従来の医療課題を解決する新しい医療サービス                        |
| 23. デマンド型                  | 利用者の事前予約に応じる形で運行経路や運航スケジュールをそれに合わせて運行する公共交通のこと                         |
| 24. アプリ                    | 「アプリケーション」の略。パソコンや携帯電話上で使える様々なソフトウェアのこと                                |
| 25. ビーコン                   | 近距離でデジタル機器のデータ通信をやり取りする無線通信技術「Bluetooth」を使って、情報を発信する端末や通信方法            |
| 26. フードデリバリープラットフォーム       | 飲食のデリバリー、テイクアウトにおいて発注・決済から配達依頼、配達までを一元管理する仕組み                          |
| 27. アクティビティ                | 旅行先での体を使った様々な遊びのこと   |
| 28. 多拠点居住                  | 都市部や地方部に複数の拠点をもち、定期的に地方部でのんびり過ごしたり、仕事をしたりする新しいライフスタイルの1つ               |
| 29. サブスク                   | 「サブスクリプションサービス」の略。一定期間の利用権を定額性で支払う方式のサービス                              |
| 30. 関係人口                   | 特定の地域と多様に関わる人々を指す言葉  |
| 31. サイネージ                  | 表示と通信にデジタル技術を活用して平面ディスプレイやプロジェクタ等によって映像や文字情報を表示するモノ                    |
| 32. リcommend情報             | プロフィールや行動履歴から興味・関心がありそうなモノ・コトを予測した情報                                   |
| 33. GPS <sup>ジーピーエス</sup>  | 地球上の現在位置を、人工衛星からの電波で測り知る装置   |
| 34. コネクテッド                 | インターネットに常時接続されたモノ  |
| 35. 移動ログ                   | 特定のヒトやモノの移動履歴  |
| 36. エコシステム                 | 複数の企業や団体がパートナーシップを組み、それぞれの技術や強みを生かしながら、業種・業界の垣根を越えて共存共栄する仕組み、ビジネス上の生態系 |
| 37. ソリューション                | 抱えている課題を解決することや、そのために提供されるシステム   |
| 38. アイデアソン                 | 「アイデア」と「マラソン」を組み合わせた造語で、アイデアの創出を目的としたイベントを指す                           |

## 39. テレワーク

情報通信技術（ICT = Information and Communication Technology）を活用した、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方のこと

## 40. 自動車分担率

自動車、バス、鉄道、自転車、徒歩などの移動手段において、自動車がどれくらいの割合で使われているかという割合を示す数値

## 41. コワーキングスペース

異なる職業や仕事を持った人たちが同じ場に集まり、共有している作業場